

地域との国際交流活動の推進

研究組織：地域連携事業代表者及び事業推進協力者

所属・職・氏名：大学側 工学研究科 留学生担当専任講師 堀尾 佳以

自治体側 宇都宮市国際交流協会 江連 征子

宇都宮市立陽東小学校 4年生学年主任 富川 忍

(1) 事業の目的・意義

工学部・工学研究科の留学生と地域との交流を中心に、以下の目的を掲げて交流活動を実施し、その意義を記す。

【目的】

留学生が、日本の伝統的な芸能や文化に触れる機会を作るだけでなく、地域の方々との交流を通して「日本人の心」を学ぶ。

また地域の方々にも各国からの留学生を通して、それぞれの母国について知って貰う機会を作る。

【意義】

各イベントでの交流を通して相互理解・異文化理解を深める事ができる。交流会で知り合った方々と市民レベルでの友好を深める。

(2) 実施方法

自治体との連携を取りながら、より活発な交流が行えるよう、サポートを行う。また、主体的・自主的な企画を立ち上げ、地域の方々に国際交流を楽しんで頂けるよう努力を続ける。

【自治体側の役割】

- ・会場の設定
- ・市民ボランティアの管理
- ・当日の支援（いちごハウス提供など）

【大学側の役割】

- ・活動計画の立案
- ・参加者の募集、指導および引率

【年間計画】

- 6月：いちご狩り
- 10月：陽東小学校交流会（第1回）
- 12月：インターナショナル・コンサート
- 1月：陽東小学校交流会（第2回）
- 1月：そば打ち体験
- 2月：上戸祭小学校交流会

(3) 事業の進展・状況

日本の四季を知る

【いちご狩り】2012年6月3日

宇都宮市国際交流協会の支援を受け、留学生と地域の方々の交流会を実施した。

【防災センター見学】

東日本大震災「3.11」からの学びと、その対策について防災センター長のお話を拝聴した。その上で防災体験と、協力して災害に立ち向かう大切さを学んだ。



防災講習会



地震体験



暴風体験



大雨体験

【いちご狩り】

地域の方と交流しながら「いちご狩り」を体験することができた。



小学校国際理解教育

【陽東小学校交流会①】2012年10月26日

宇都宮市立陽東小学校との交流も3年目を迎え、年間2回の国際理解教育交流会に参加した。

学 生：7名

国 籍：韓国、マレーシア、中国（内モンゴル）、
ラオス、ベトナム、
日本（ドイツ：帰国子女）

第1回目は留学生の母国について、世界地図の位置関係を確認した後で、それぞれが事前準備した基本情報を写真や地図を駆使し説明した。

【各国紹介】



紹介と挨拶



ラオスの国紹介

【質問・お礼の歌】

6カ国のプレゼン終了後に、児童からの質問を受け付けた。沢山の疑問が挙げられ、第2回の交流会での課題とした。



質問タイム



お礼の歌
世界に一つだけの花

諸外国を知る

【インターナショナル・コンサート】2012年12月15日

新たな試みとして、工学部・工学研究科独自の地域交流イベントを企画・実行した。

留学生が中心となり、自分達の国の音楽や踊り、そして「食」を知って貰おうと考え、計画立案した。全員がボランティアで活動し、地域の方やお世話になった方へ招待状を配布するだけでなく、全学の広報へも報告した。

【事前準備】

留学生が母国をより深く知って貰うために次の準備を行った。

- ・音楽や踊りの練習
- ・各国料理の紹介と材料調達
- ・会場設営の計画と実行

【プログラム作成】

各国の音楽や踊りなど、出し物について日本語だけでなく母国語でも表記した。カラー印刷を行ったものを準備し、コンサート当日に来客者全員に配布した。

International Concert
日程 12月15日(土) 13時～ 場所 工学部 総合研究棟223

プログラム

1. 司会者挨拶
2. 開会のことば 工学研究科長 池田幸先生

第1部 各国の歌・ダンス・劇

1. ラオス 【cucun】 ター・デーのバンド
 ຄາວໂຮ່ງຄາວໂຮ່ງ ກິລາມາດກິລາມາດ
 ເຢັນສະບາຍຊາວນາ ສາລຸນາປາຍີກາວນາ
2. マレーシア 【ハニス・バンド】
 Anak kampung アナツク・カンブン
 Jerrypah ジェリパ
 Rasa sayang ラサ サヤン
3. 劇 「最高の恋人」 【初中級】
 "Eine ganz neue Welt"
A WHOLE NEW WORLD
4. ドイツ 【石崎純理と愉快な仲間達】

5. ベトナム "Mèo lại hoàn mèo" 猫はまた 【4匹の猫】
 "Trông Com" チョムコン 【VN46】
6. 世界各国 ファッションショー
 < 休憩 >
7. 【壬生町朗読ボランティアグループ ひばり】
 人形劇 「ねずみのすもう」
8. スリランカ 【සමගම සජයාසය සාසානා】
 සජ අප්පිනි ස්ට්‍ර අප්පිනි
9. 群談 「100万回生きた猫」
 【日本語ティータイム有志】
10. 韓国 "강남스타일" 【江南スタイル】
 【韓国：国際交流研修チーム】

第2部 世界を食べよう!
 ベトナム・ラオス・シリア・マレーシア

第3部 みんな友達 ゲーム & ダンス

【インターナショナル・コンサート】

地域の方や学内のお世話になった方々、卒業生を招待し、コンサートを開催した。



研究科長の御挨拶



約120名が参加



ラオス：歌



初中級日本語
オリジナル劇



ベトナム：ダンス



マレーシア：バンド



4カ国の料理に舌鼓

4時間にわたり、地域の方と交流を深めた。



小学校国際理解教育

【陽東小学校交流会②】2012年1月14日

1回目の交流会をふまえ、児童から出た疑問に答える形式で進めた。

学 生：5名

国 籍：韓国、マレーシア、ラオス、ベトナム

日本（ドイツ：帰国子女）

【質 問】

教室でPCを使用し説明を行う。児童は10分毎に各教室を回る。

テーマ：伝統、学校、食事、観光、スポーツ等



【昼休み交流】

昼食を共にした後、鬼ごっこやドッジボールといった遊びを通して交流した。



日本文化を学ぶ

【そば打ち体験】2012年1月26日

「そば打ち体験」を通して日本文化に触れ、地域住民との国際交流を促す。

参加者：30名

講師3名：村松先生・大関先生・寄川先生

工学部教員と退官教員による「そば打ち」実演と体験講座を開講し、地域の方との交流を促進した。

【実 演】



【体 験】



小学校国際理解教育

【上戸祭小学校交流会】2013年2月4日

宇都宮市国際交流協会を通して依頼され、2名が国際理解教育交流会に参加した。

学 生：2名

国 籍：ベトナム、ラオス

陽東小学校と同様に、留学生の母国について、世界地図の位置関係を確認。その後、それぞれが事前準備した基本情報を写真や地図を駆使し説明した。



(4) 事業成果（自治体側の成果も含む）

【成 果】

全体的に、地域住民との交流を促進する事ができた。特筆すべきは、工学部・工学研究科の独自の企画について、留学生が主体となって活動を進めた事であろう。

24年度の交流を続けていくうち、普段の生活でも交流の成果を実感した事例がいくつかあった。

留学生が地域の方や小学生から声をかけられ、そこから会話が発展し、相互理解を深めた事。外国の料理に興味を持ってメモを取り「帰ってから作ってみる」と言っていた方が実際に作った話をしてくれた事。

以上のように、小さな活動の積み重ねにより、少しでも異文化相互理解が進んだと言えよう。

今後も地道な努力を続けていく所存である。